

第4回瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

▽日 時 平成27年10月30日(金) 10:00~12:00まで

▽場 所 瀬戸市役所北庁舎4階 庁議室

▽出席者 (順不同、敬称略)

[瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議委員]

横井暢彦、寺田聡、水野貴久枝、成田一成、丹羽誠、山中俊博、熊谷由美、中桐淳美、
山田基成、宮内美穂、水野和郎、牧 治

[市]

市長 伊藤保徳、行政経営部長 加藤仁章、行政経営部参事兼経営課長 高田 佳伸
行政経営部参事 涌井康宣

▽欠席者 (順不同、敬称略)

[瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議委員]

岡崎信久

▽議題等

- (1) 市長挨拶
- (2) 瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関する意見交換
- (3) その他

▽議事内容

事務局から、議題2「瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議委員からのアイデア整理について」、資料の確認程度の説明がなされた。

議題2：瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関する意見交換

〈山田座長〉

座 長： 前回の議論を踏まえて、タタキ台を提出いただいているが、この案に対してご意見のある方から発言いただこうと思う。

〈水野和郎委員〉

委 員： 既に実施している事業はそのままで良いが、新規事業の中で記載がないものについて、私は、「しごと」のところに、赤津インターチェンジの土地の有効活用について加えると良いと思う。

長久手市は愛知県で最も住みたいまちとなっている。全国で第2位。瀬戸市は人気がありません。何が違うのか。若い人たちに聞くと公園、遊べる所、と言っている。

〈横井委員〉

委 員： パブリックコメントに向けて、「なぜ、この政策をやらなければならないのか」という視点で見るとPDCAのCの部分抜けているのではないかと。現状分析をされて、人口ビジョンとの関係がどう結びつくかを入れ込むとよい。長久手は、数値をとるとよく見えるが、2040年

の高齢者の割合は日本の中でトップ 10 に入る 300%になり、ものすごく厳しい状況となるが、瀬戸市は 100%である。

〈山田座長〉

座長：今の横井氏のご発言について、報告書の序論等に瀬戸市の現状について、わかりやすい形で入れ込むということで検討いただきたい。

〈横井委員〉

委員：例えば、空き家プロジェクト等で、なぜ空き家なのかというところである。

〈丹羽委員〉

委員：5 ページの“やきもの”に関する記載について、“やきもの”を『新たな文化（＝価値創造）』やきものを『新たな文化（＝価値創造）』という視点に転換すること、とはどういうことか。抽象的で解りづらい。

〈事務局〉

事務局：“やきもの”について、現状の産業のところだけを存続させるという議論でなく、1300 年に渡って育まれてきた有形無形の瀬戸市の資産・財産をどう活かすかを考え、その方策として「文化」の位置付けで“やきもの”を捉えて、これからの基幹産業としてやれることからやりましょうという内容で提案している。

〈山田座長〉

座長：私の理解では、産業プラスαとして文化という側面として、新たな価値づくりだと思う。

〈丹羽委員〉

委員：産業と文化を分けて見ると、瀬戸には大きな“やきもの”という文化があり、併せてアピールできることから、産業と文化が互いに関連しあうと思う。上手に扱っていただきたい。

〈牧委員〉

委員：長久手はそんなにいいのか。数値だけか。全国の人がイメージだけということか。イメージで変わるのであれば、瀬戸もやる事がたくさんある。瀬戸のまちは自虐的な評価で、悪いことが伝わってしまっている。本当はそうでもないのに、自分たちが自分たちのまちを誇れるような考え方に展開していくことで最下位は脱却できる。そういうことにつながる必要がある。

新規事業をみると、25 ページの「にぎわい」が空き家対策ばかり。空き家対策にスポットを当てるのであれば、空いているところだけでなく住んでいるところにも当ててもらいたい。住んでいる人は何も構ってもらえない。空き家には補助金が出るけれども、住んでいる家には何も出ないではなく、全体のニーズを捉えてもらえるとよい。

長久手はイメージ戦略でうまくやっている、瀬戸市も外に通じるようなイベント等、わかるものが必要。外の人が見ている場面で発信していくことが、まだまだ。もっと自分たちのまちを PR する部分について、考えを放り込んでいただきたい。

〈山田座長〉

座長：「にぎわい」のところのメニューをもう少し考え、メニューを増やして考えて頂くということでよいか。

〈丹羽座長〉

委員：13 ページに地域のブランディングがある。瀬戸市のブランド力をアピールすることが必要。長久手市には魅かれるところがある。歴史の浅いまちなので、新しい住宅がある。瀬戸は昔から産業がある。傍からみると瀬戸のまちは歴史があるだけに、外から入りづらいということがある。それを払しょくし、瀬戸は開けたまちで他所から受け入れる文化があるということを発信していくことが瀬戸の魅力と思う。

〈成田委員〉

委員： 発信という意味では、「瀬戸やきそば」を始めいろいろある。12月に六本木で発表した見本市。猫祭りに参加する人が増えた。猫メイク等、外から来ていただくお祭りを増やすこともあり。秋田県横手市はお祭りをしょっちゅうやっている。何もやっていないわけでもないということを理解して欲しい。それぞれ市民で木を植える等もやっている。

〈山中委員〉

委員： 新しい産業や企業誘致をして、若い人が働けるまちにしないと安定した雇用を創出できない。活性化にもつながる。「にぎわい」については、交通アクセスの問題が大きい。瀬戸線がネックになっている。もう1つは私が子どもの頃は、映画館等のにぎわいがたくさん瀬戸市内にあった。表玄関である瀬港線沿いのどこかに、市外からも来て頂けるような映画館等があると良い。また、瀬戸には素晴らしい陶生病院があるので、そういうもの等を活用するのもあり。道の駅についても、品野でいいのか。中心市街地は、瀬戸駅で降りて歩いて行くとほとんど電氣も消えていて、人通りもないため、まちのつくり方を変えていくべき。ブランドという意味では、瀬戸の珪砂は日本全国70-80%以上のシェアのブランド力のある産業なので、表に出し、視点を変えて考えて行くのがいい。

〈山田座長〉

座長： ご指摘の通りだと思う。ここはソフト中心ということで、事務局に今のご意見を含め反映していただきたい。

〈水野貴久枝委員〉

委員： にぎわいという話がでていたが、子どもって楽しい思いをしたところにまた帰ってきたいという愛着が必ず脳の中に生れてくるので、UJターンに触れて話したい。長久手は新しいまちで、若い人は新しいものが好き。楽しい思い出があって、繋がりのある地元に戻って来るので、2世代同居・近居で考えた方がやりやすい。随分前の資料に意見が載っているが、2世代同居・近居支援というのが、ここに無いと思ってしまった。お金を使えばいいという問題ではないが、瀬戸市に戻ってきて住んでもらえれば、住民税が入ってくるし、生活消費が多くなり、商店が潤う。地元に戻ってくるメリットということで、病児病後児保育も今あるのだが、両親が定年になって子どもを見てもらうことができれば、お母さんも安心して瀬戸で仕事ができる。UJターンを入れて欲しいと思う。

〈山田座長〉

座長： 今の水野氏のご発言について、判断は事務局に任せるということでいいか。

〈寺田委員〉

委員： この総合戦略はソフトということであったが、新規事業の中には、駅の整備やバリアフリー等のハードも入っている。その辺は矛盾にならないのか。個人的には、子どもの時代から地元を愛するという気持ちを育てておくのと人口流出を防げるし、戻ってくる人を作れる。キャリア教育をしていただいているが、高校までいくと差があるのか、切れてしまっている。高校生は将来を決める年代であるので、地元との関わりを再度もってもらえるよう、ソフトの面でできないか。11ページに人材育成があるが、国から移管を受けた瀬戸サイトを活用し、隣接する県立瀬戸窯業高校や県立職業訓練校を取り込んで、大学や民間の支援・ノウハウを得て瀬戸窯業高校を活用したとあるが、ここに書いてあることが実際の24ページの「しごと」に通じるところか。地元の高校との関わりいうところが書かれていないのは残念だった。

〈山田座長〉

座長： 事務局へ確認だが、ここに並んでいる新規事業というのは、最終的にこの中からピックアップしてやるということか。この段階で全部実行はできないと思うがどうか。

〈事務局〉

事務局： 提案した資料の見方として、第3章で記載したものは5年後にこちら辺まで到達することを目指そうという視点。進行管理は、毎年P D C Aで議論しながら必要に応じて政策事業の見直しをしていくことになるので、今回は、28年度にスタートを切るに際して、何から始めようかというネタという形で捉えていただけるといい。これまでの委員からの意見の採否については、市役所の政策事業として実施する優先度を整理する中での判断もあるので、そのあたりをご理解いただきたい。

〈寺田委員〉

委員： 委員からの意見が載っていないところもあるが、細かいことを出してしまうと縛りが出てきてしまうので、議論したことだけ載せればいい。

〈牧委員〉

委員： 総合戦略と中期事業計画、6次総合計画のすみ分けに関して感じた事は、即効性のあるもの、国からやれと言われたからやっているが、もう少し全面に出てもいい。人が減っていることへの特効薬みたいなことを考えるという感じか。

〈山田座長〉

座長： どこまでいってもこの計画はオーバーラップしている部分があって、切り分けは不可能。その上で、この場合はアイデア出しなので、何を取捨選択するのかは市長さんのご判断とご理解いただいた方がいい。

〈牧委員〉

委員： 普通の案と混じってしまっている。

〈山田座長〉

座長： 既にやっているものを外すことができないわけではないが、ここを出していただいた案をベースにして判断頂いた方がいいのであれば、それは決めないといけない。意見交換を中断して報告書としての形式体裁をどうしていくのかというのをご意見いただきたい。

〈成田委員〉

委員： 前市長の時の話だが、パルティ瀬戸でテナントの連絡管理をしているのでお金が余っていたら活動をということであったが、残念ながら金が無い。まるっとミュージアム等で陶祖まつり、ノベルティ、中心市街地の為に何かしたいけど、誰がやるのか、協力もいる。ということで、予算をつけていただいて、できるようにしていただきたい。まずは予算確保が必要。

〈山田座長〉

座長： この総合戦略は国に出すものであるもので、ここに出た案だけを持っていって予算がもらえるかというのは別の視点。様々なメニューを書いているというその辺りもご理解いただく必要がある。

〈横井委員〉

委員： 委員会からの意見が抜けてしまっているものもあるが、このまとめとしては、素晴らしいものに出来上がっている。瀬戸市の中の事と、国に出すものを精査してもらえればいいと思う。

〈宮内委員〉

委員： 2つ増やしてほしいことがある。「しごと」のところで、既存の地場産業の活性化も大事だし、企業誘致も大丈夫であるが、そうかといって直ぐに企業誘致は難しいので、ベンチャーの支援の方にあてた方が堅実的でないではないか。それには、ただお金を出してあげることでは大抵がプロセスの中で失敗するので、プロボノの活用等も含めて、もう少し仕事の中に入れて頂ければ「じりつ」に繋がると思った。

もう1点、「にぎわい」のところにブランディングがあるが、長久手との違いは、長久手より

瀬戸市が知られていないということがランキングの低さに表れている。沢山お祭りをして情報発信をしても、愛知県外の人に伝わっていない。もう少しにぎわいのところを大事にして、情報発信を盛り込み、瀬戸市自体を知っていただく方がいい。なので、23 ページの戦略Aの評価項目を見直した方がいいのではないかと。例えば 24 ページのやりがいのある仕事、趣味や楽しみを持ち、生きがいのある暮らしをしていると思う市民の割合の評価項目があるが、これは瀬戸市と関係がなくても感想にすぎないので、瀬戸市としてやったことに対しての指標が必要ではないかと思う。

〈山田座長〉

座 長： 3 点ご指摘いただいたが、最後のご指摘の指標は基準値が書いてあるが、ご指摘いただいたのは新たな項目を加えること、議論の余地があるという理解でよろしいか。

〈事務局〉

事務局： 国の求めている K P I 指標というのは、現状のデータを捉えてどこまで伸ばせるのか設定せよというルールであり、現状ない数値を設定することは難しい。この表現として本当にいいのかという部分はあるので、指標説明の表現方法は事務局で預かりしたい。

〈山田座長〉

座 長： 1 点目の起業云々への支援、既存事業を入れておく必要があるのか、ないのか。その判断として、既存事業をあえて入れる必要があるのかの説明をお願いします。

〈事務局〉

事務局： ご指摘の通り、第 1 回から 3 回までの当推進会議での委員の皆さまからのご意見には、実は私どもの政策事業のアピール不足なのか、既にやっているというものもいくつかあった。そういう点で、新規も既存も入れさせていただいて整理している。この総合戦略では、国に対して公金（交付金）をいただく事業の整理という側面もあることから、新規と既存の両面を入れた形で（総花的なまとめ）でスタートし、次年度以降の P D C A の進捗管理の中で、何が足りなかったか検証し、目標に掲げる未来像に近づくために次に必要なもの、削るべきものを議論しながら選択する形で進めていければいいと考えている。

〈山田座長〉

座 長： 今の事務局のご説明で、ご理解いただけたということによろしいか。

〈中桐委員〉

委 員： この案を見て、単純に難しいということ感じた。自分の立場として役割を果たせたかという印象を抱いている。この計画の特徴として、市民への見える化をはかる、市民に伝えたいという言葉 1 つ 1 つ、分かってほしいという表現でつくられればという思いがあり、瀬戸市が変わっていくという印象を自分が受けたように、市民の皆さんに提示することで瀬戸市は変わるのだと印象付けるものになって欲しい。

まちづくりで大きな成果を上げた市町村は、何か 1 つわかりやすい形に絞り込めた自治体が成功しているように思う。その辺は整理してもいいかと思う。共感するところで、果たしてこの会議の中にあっただのかなと思うのだが、実は何か背景に決められた事があるのか、それならはっきり可能性があるかと付け加えた方がよい。実現性を感じられるという計画は魅力があるのではと思った。自分が出した意見がほとんど上がっていない状況で、誇りを持てる、愛着が持てるということで、私自身瀬戸市が大好きで思いが抱ける政策を提案したものがいくつかあるが、そういったものを今一度見直していただければと思う。

〈山田座長〉

座 長： 発言の後半の部分については、事務局で詰めて頂くということで。前半の部分で、戦略といながら総花的になっていることについてだが、そこは民間の企業であれば、儲けるためのキャッチコピーを社長が決めるだけだが、多岐にわたる行政分野の中でそれを求めるのは難

しい。事務局で、できるだけご検討いただき、年明けに最後の会合があるので、そこで確認いただくようにしたいと思う。

〈熊谷委員〉

委員： 国の交付金をいただくという点では、体裁を整えなければならないと思った。人を呼び込むというソフトの部分で話しをすべきと思っていたのだが、ハードの部分がこの中にいくつもあって、補助対象でないのであれば、外してもいいかと個人的には思う。「じりつ」というところで瀬戸市にしか無い部分は、たくさんの方々に色んな方向性で意見をいただくという機会はあまりないので、この機会をアイデア集の1つとして、活かしながら施策をできるとよいと思った。役所の改革も盛り込まれているので、頑張っていきたい。

〈山田座長〉

座長： そろそろ時間がきているが、どうしても発言ということがあれば。

〈水野和郎委員〉

委員： 「しごと」の中にある、プログラムでかなり進んでいるものもある。海外セミナーも10月11月と実施している。プロボノについては、2年前から参加しているのが現状。私どものPRが足りなかったのかと思っている。また、にぎわいの中心市街地の補助金制度も既にある。利用度がどうなのかということが問題。トップクラスの補助制度があるのに、中心市街地はあまり利用が無い。PR不足だと思う。市民の皆さんに是非アピールして欲しい。市長に聞きたいのだが、出生率1.84というのはできるのかなど。

〈伊藤市長〉

市長： 人口を含め、出生率の目標をどう考えるのかは難しい。議論の中で、1.84にするためのあの手この手を考えなければいけないが、簡単に目標設定すればいいという発想は、個人的には全然そぐわないと考えている。いずれにしても、個々の施策政策に到達目標を用意した方がいいと思っている。

〈山田座長〉

座長： 最後に、これまでの意見交換全体を受けて市長さんからお願いします。

〈伊藤市長〉

市長： とすると、事務方の用意した隅っこの話が気になられた方がいるかと思うが、個人的には自ら変わっていくことが重要だと思っている。その上で、「しごと」、「にぎわい」、「くらし」は、瀬戸の独自の地域モデルを作っていきたいと思う。戦略を実現していく間に紆余曲折はあるだろうが、まずは沢山のアイデアをいただいたので、それに対して国に予算請求するための作文を用意しなければならない。

先日、B1で青森に行ってきた。瀬戸の人は、ものすごく動いている。一方で、瀬戸ってどこ、まねき猫って何って感じだった。全体的な物語を作って、瀬戸まちブランドとして、やきもの、歴史・文化、周辺の産業に勢いがつけられる内容を、現在立案中の第6次総合計画の中核にもっていきたい。それから、個別적으로는、空き家の記述が多いが、それは空き家の政策は補助金を取れる可能性が高いから書いている。しかし、空き家対策が目的ではない。空き家ということアドバンテージにして、そこを強みとして、民泊、レストラン、休憩所ができないかということ。空き家対策が新たな産業の誘致や交流人口増大を狙う手段として使っていけたらいいと思っている。ありがとうございました。

〈山田座長〉

座長： ありがとうございます。これまで委員の皆さまからご指摘いただいた点について、事務局で検討してほしい。これで、本日の議事を終了させていただく。ありがとうございました。

事務局から、次回は 1/8（金）10 時～の開催とし、パブリックコメントを実施した内容を踏まえ、最終版について報告することを報告。

以上